

平成29年2月県議会
定例会における

知事議案説明要旨（抄）

ただいま提出いたしました平成29年度当初予算案をはじめとする議案の説明に先立ち、新年度の県政運営に向けての所信などについて申し述べさせていただきます。

（中略）

【県政に取り組む基本姿勢】

さて、来る平成29年度においては、しあわせ信州創造プランの総仕上げ、行政経営改革の徹底、地域振興局を核とした地域重視の取組、次期総合5か年計画の策定の4点に全力を傾注してまいります。

（中略）

（次期総合5か年計画の策定）

さて、来年度は、今後の県政の道しるべとなる次期総合5か年計画策定に本格的に取り組む一年になります。

「There is nothing like a dream to create the future.」（夢、これ以外に未来を作り出すものはない。）

これは、ミュージカルにもなったヴィクトル・ユーゴーの作品「レ・ミゼラブル」の一節です。

まさに長野県の未来を創造していくための次期総合5か年計画は、県民一人ひとりの夢を結集して大いなる「夢」を描き、その実現に取り組む計画にしたいと考えています。そのため、まずは個人や企業、団体の皆様との間で、当面の課題のみならず、将来への夢や希望に関する対話を積極的かつ丁寧に行ってまいります。

今、世界では、大きな変化が加速度的に進行しています。70億人を越えた地球上の人口は毎年数千万人単位で急速に増加し続けている一方で、我が国の人口は2008年に約1億2,800万人のピークとなった後減少に転じ、2050年前後

には1億人を下回る見通しであり、歴史上類を見ない急激な人口変動期を迎えています。また、I o T（モノのインターネット）、A I（人工知能）、ビッグデータといった情報通信技術やナノテクノロジー、バイオテクノロジー、ロボット産業などにおける急速な技術革新は、産業や社会に急激な変革をもたらしています。さらに、市場経済が世界中に拡大し、人・物・資本・情報が国境を越えて容易に移動していくグローバル化も急速に進展しています。

他方、国内、県内に目を転じると、平均寿命の延伸、価値観の多様化や高速交通網の充実など、時代は大きく変わろうとしています。1960年に65歳であった男性の平均寿命が2013年に80歳を超え、女性の平均寿命は2050年頃に90歳を超えるとの推計が出されるなど、人生100年時代の到来も夢物語ではなくなりました。物質的な豊かさよりも心の豊かさを重視する人が多くなり、都会から地方への移住者や二地域居住者が増加するなど、人々の生き方に対する考え方やライフスタイルも多様化してきています。一方、今後予定されている2023年の北陸新幹線敦賀延伸や2027年のリニア中央新幹線開業、信州まつもと空港の国際化に向けた取組や中部横断自動車道、中部縦貫自動車道、三遠南信自動車道などの整備は、本県の産業や暮らしの基盤である交通体系を大きく変えていきます。

以上のような急激で大きな時代の変化を踏まえながら、次期計画の検討を行ってまいります。

また、地域振興局がそれぞれ管轄する地域はもとより、県境を挟んで隣接する地域などとの交流・連携をも視野に入れた地域編を策定することとし、地域重視の観点を徹底してまいります。2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に盛り込まれた17の持続可能な開発目標や、日本総合研究所による「都道府県幸福度ランキング」の指標なども意識して、達成目標の設定等を行います。

こうした考え方の下、今後、総合計画審議会での御審議や「長野県議会総合5か年計画研究会」の御議論、更には県民の皆様との対話を踏まえつつ、長野県の新たな「夢」を実現させるための骨太の政策を創り上げてまいります。